

2008 JFA女子委員会 重点施策

2015年、
女子のプレーヤーを300,000人に

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。

- ◆ 女子選手を取り巻くサッカー環境を、「Players First!!」の観点で整備する。

【2008 重点施策】

- なでしこリーグの環境・競技レベルを向上するための改革案を策定する。
- なでしこリーグにつながる地域リーグの2009年度設置に向けた準備を進める。
- 国体改革〔参加資格の見直し〕を促進する。
- 全国高等学校体育連盟への加盟を果たす。
- 中学生年代にトレーニング環境（指導者・場所）の整ったチームを増やす。
⇒ Jリーグとの連携／「市区町村に1つ、女子チームを！」
- 小学生年代でサッカーに親しむ場を増やす。第4種との連携から融合へ。
⇒ 競技会のあり方の検討／授業で必ず行われるよう働きかけ／少女チーム創出の働きかけ

- ◆ 近い将来、FIFA女子ワールドカップを日本で開催する。

【2008 重点施策】

- 開催目標年、目的・狙い、メリット・デメリットをU-20・U-17ワールドカップを含め、検証・検討する。

- ◆ 女子サッカーの認知度を上げる。

【2008 重点施策】

- 積極的な情報発信：テレビでの露出を増やす。

2015年、
日本をFIFAランキングトップ5に

2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする。

- ◆ U-20/U-17ワールドカップには必ず出場する。
- ◆ ワールドカップ／オリンピックでベスト4に進出する。

【2008 重点施策】

- 北京オリンピックに向けて綿密な準備をし、準決勝進出、メダル獲得に挑む。
- なでしこジャパン・U-20・U-17の連携による強化・育成を図る。
- フィジカルフィットネスの重点強化を図る。
⇒ 代表の活動を通じての発信／所属チームとの連携による継続的な取り組み
- 次の世界大会でも全カテゴリー出場を目標として、早くから準備に取り組む。トレセン等と連携し、より多くの可能性ある選手の中から発掘・育成する。

3. 世界基準の「個」を育成する。

- ◆ 各年代日本代表選手につながる、タレントの発掘・育成システムを整備する。

【2008 重点施策】

- なでしこチャレンジプロジェクトの一環としての「海外留学」を実施する。
- 都道府県トレセンU-18の活性化を図る。 ⇒ 実態把握から国体改革と連動した活動促進
- U-12年代からの発掘・育成システムの整備
⇒ 発掘の場としての大会の充実／NTC U-12女子選手参加促進／都道府県トレセンからの継続的な活動
- トレセン（ナショナルから都道府県まで）の指導の質を向上させる。 ⇒ 指導者のための巡回指導

- ◆ 女子に携わる指導者のレベルアップを図る。

【2008 重点施策】

- 指導者講習会への受講促進、指導者の拡大を図る。
- 女性指導者登用の機会を増やす。